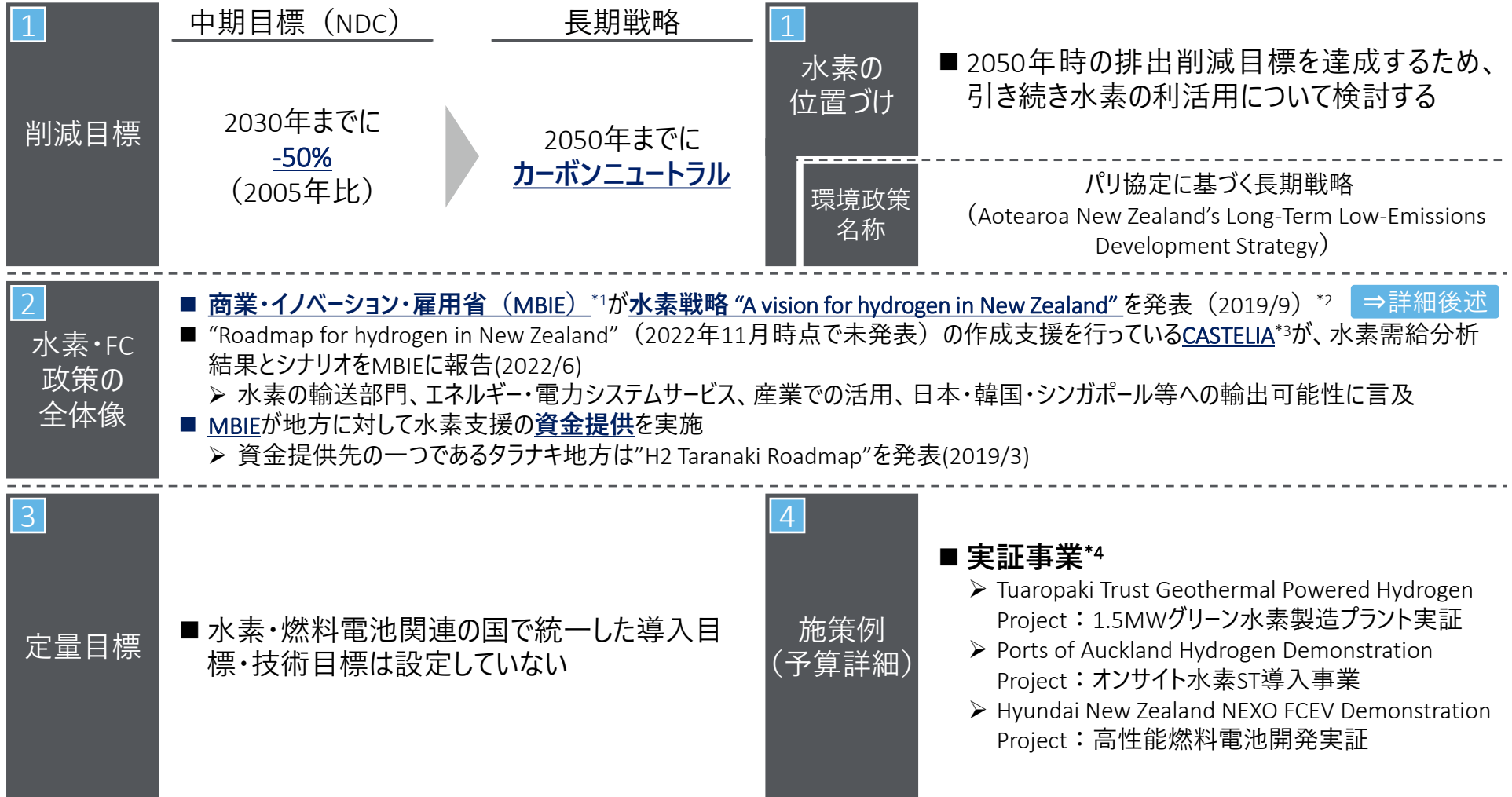




【国・地域別サマリー ニュージーランド】 連邦政府が国家水素戦略を策定し、水素輸出に力点を置いた施策を展開する



出典：*1： Ministry of Business, Innovation and Employment *2.： csiro “HyResources-New Zealand” (2021/7) *3： ロードマップ策定支援を行っているコンサルティング会社 *4： Ministry of Business, Innovation & Employment “Hydrogen in New Zealand” (2022/4)



< 参考：水素・FC政策の全体像詳細 >

ニュージーランドは水素戦略策定の第1段階として2019年にビジョンを公表し、 今後はロードマップも策定する予定である

| | | |
|-------------|--|--|
| 名称 | <p>ニュージーランドにおける水素ビジョン (A vision for hydrogen in New Zealand, Green Paper)</p> | |
| 策定主体 | <p>商業・イノベーション・雇用省 (Ministry of Business, Innovation and Employment)</p> | |
| 策定時期 | <p>2019年9月</p> | |
| 背景 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 2035年には電力を100%再生可能エネルギーに切り替える目標あり ■ 2050年にはカーボンニュートラル目標あり | |
| 目的・ 位置づけ | <ul style="list-style-type: none"> ■ ニュージーランドの水素戦略は2019年9月に公表された「Vision」と、現在作成中の「Roadmap」の二つで構成される ■ Visionでは、将来像（案）を描くとともに、水素製造、利用、輸出などに関する27の質問を提示している <ul style="list-style-type: none"> ➢ パブリックコメントを実施した結果、78件の意見が提出された ➢ Visionと意見は今後の再生可能エネルギー関連戦略の参考とする | |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 水素の利用は運輸、産業、発電・蓄電、ガスシステムの脱炭素化、そして輸出を想定する <ul style="list-style-type: none"> ➢ 各部門における水素利用の優先的ターゲットも提示している ■ 水素ロードマップの骨子も示している <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2020年まではグレー水素の製造も想定するが、2020年以降は主にグリーン水素と（技術的に可能であれば）ブルー水素の製造を想定 ➢ 2030年には水素ステーションを200ヶ所設置する想定 | |

出典：Ministry of Business, Innovation and Employment “A vision for hydrogen in New Zealand , Green Paper “（2019/9）